

# 行政視察報告書

令和 5年 3月 1日

長浜市議会議長

様

長浜市議会議員

加 俣 義 之

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

## 記

1. 視察等名 会派 新しい風 行政視察
2. 視察期間 令和 5年 2月 13日 (月) ~ 15日 (水)
3. 視察場所及び目的
  - ① 滋賀県大津市 ・ 商店街活性化について
  - ② 兵庫県川西市 ・ 病院統合について
  - ③ 徳島県徳島市 ・ デジタルトランスフォーメーション・脱炭素の取組について
  - ④ 徳島県神山町 ・ 過疎化対策について

### 4. 調査内容感想等

・視察の目的 … ①について 街に活気を呼び戻す「商店街ホテル 大津百町」のユニークな戦略。

・視察の内容 … 商店街全体をホテルに「見立て」る。「商店街 HOTEL 講大津百町」は、ホテルとその建物だけで捉えてはいない。「商店街 HOTEL…」として、商店街全体を丸ごとホテルに「見立て」ていることである。商店街をひとつのホテルとして見立てた「講 大津百町」では、リノベーションした個々の町家は客室の一室で、商店街にある飲食店や喫茶店はホテルのレストランやカフェ。酒屋、江戸時代創業の漬物店、鮎ずし専門店など多彩な商店は、土産物ショップにあたる。ゲストは食事をするにも、物を買うにも、必然的に街に出て店舗を利用することになる。結果、商店街にお金が落ちる仕組みである。ホテル名に入る「講」というのも信頼関係を基盤とした相互扶助システムの

こと。困った時に互いに手を差し伸べる、日本的な支え合いの精神もその核にある。

・行政視察の結果を本市議会にどのように反映させるか

名所を見て回ったり、温泉で疲れをいやしたり、旅の目的は人それぞれだが、土地の文化を知り、地域の人との交流を旅の醍醐味と考える人にとって、「商店街HOTEL 講大津百町」はベストな選択になるはずである。環境客のあらゆるニーズに応じていく今後のまちづくりの一つの方法だと思う。

・視察の目的 … ②について 赤字だった市立川西病院が劇的な変身を遂げ、存続すら危ぶまれたが総合医療センターとして再生した事例を視察。

・視察の内容 … 兵庫県川西市の市立川西病院が市内の新たな土地で川西市立総合医療センターとして再スタートした。市立川西病院は2014年には経営健全化団体となり、再建は難しいと考えられていた。にもかかわらず、コロナ対応に追われる中で、新たな地域医療の中核となる市立総合医療センターとして再生できたことの過程を視察した。

川西市は、大阪府に隣接した人口約15万人の南北に長い都市である。近年の全国的な少子高齢化に伴う人口減少は川西も例外ではなく、患者数も減少していく。市立川西病院の経営は徐々に悪化し、2002年には赤字経営に転落してしまう。以降赤字経営が続いてきた。病院の建物も築35年を超える老朽化に加え、立地の悪さから医師の確保などが難しく「病院の今後のあり方検討会」などで、病院の移転や建て替えなどを検討されたが、経営状況の改善は進まず難航していた。2014年には、ついに経営健全化団体になってしまう。よって新築移転も大規模改修もできなくなり、再建への道

は益々厳しくなった。市はこの間、市民病院の必然性を重んじ、毎年10億円の補助金投入や26億円の長期貸付などによって支援を続けたが、それも厳しい市の財政状況の中で限界であった。そこで、赤字が続く市立病院の経営を早急に立て直す必要があることから、民間的経営手法を活用した指定管理者制度を導入。2019年4月1日から市立川西病院は医療法人協和会が指定管理者として運営にあたっている。市にとっては、整備費用は市立川西病院の建て替えに必要な財源である地方債の発行許可が国から得られるとともに、「国からの財政支援」がこのスキームにより拡充される。総合医療センターの整備に係る財源は市が全額地方債で賄い、その返済は指定管理者である医療法人協和会と折半である。市が負担する50%のうち40%は国からの財政支援（地方交付税）を受け、実質的な市の負担は10%に収まるというわけである。運営費用は運営を行う指定管理者である協和会がまかなうため、市にかかる費用負担は無い。一方、協和会にしても総事業費の50%を負担しても自力ですべて建設するよりリスクは少なくすむ。

・行政視察の結果を本市議会にどのように反映させるか

行政である川西市と猪名川町に加え、医師会、歯科医師会、薬剤師会の3師会と、川西市と猪名川町にあるすべての病院が連携するという地域医療連携推進法人「川西・猪名川地域ヘルスケアネットワーク」である。これにより、従来できなかった医療過疎地など広範囲な医療サービスや、質の高い医療の提供が地域の全医療機関との連携で可能になる。それをコントロールするために、新しい総合医療センターのロビーには、「患者支援センター」が設けられ、紹介状を持って受診する患者はもとより、退院

した後も患者支援を行っていく。回復期、慢性期の病院、介護施設、在宅まで含めてここで調整できるようになっている。市全体が1つの医療機関のように活用ができ患者がスムーズに移動して必要な医療と介護が受けられるようにする「入退院管理システム」を確立する。

・視察の目的 … ③について 国が自治体に示しているデジタル技術の活用が社会や人々の生活をあらゆる面でよい方向に変革させる、デジタル・トランスフォーメーション (DX) の実現に向け、徳島市の事例を視察。

・視察の内容 … 基本的な方向性や具体的な施策を示す、「徳島市デジタル・トランスフォーメーション (DX) 推進計画」を策定。計画目標としては、「誰一人取り残さない、安全、安心で利便性の高いデジタル社会の実現」計画期間は、令和4年度から令和7年度までの4年間。

徳島市デジタル化推進委員会を設置し、デジタル化推進に向けた全庁的な方向性の決定や、デジタル化推進に係る施策の策定等が行われた。

取組方針 ①「地域課題の解決と新たな価値の創造」

②「行政サービスの更なる拡充による市民の利便性の向上」

③「行政運営の簡素化及び効率化の推進」

④「DX推進体制の整備」

徳島市のデジタル化の推進等に関する様々な市民の声を計画に反映するため、市民アンケート調査が実施された。

<主なデジタル化についての意見・要望>

・デジタル化は推進すべきであるが情報弱者、端末を持ってない方、高齢で機器の使

い方が分かりにくい方へはケアが必要。

・平日に休みが取れないので、市役所等に行くことがなかなかできない。少しでもオンラインで手続きできることが増えれば良い。

・情報漏洩のためのセキュリティ強化の対応を行ってから、デジタル化しないと意味がない。

・行政視察の結果を本市議会にどのように反映させるか

市民アンケートを実施して市民主体のデジタル化を実現し調査結果は各部局で共有して取組項目に反映する。また ICT の知見やノウハウが必要なため地域情報化アドバイザー派遣を活用。また庁内でのデジタル化については、幹部職員にしっかり意識してもらうため、研修を実施。デジタル担当職員を各部局に配置しDX主任を選任して連携。

・視察の目的 … ③について 脱炭素の取組について

徳島市では、令和3年3月に「第3次徳島市環境基本計画」を策定され、市域からの温室効果ガスを削減するため、市の地域特性や市民、事業者、市等の役割に応じた地球温暖化防止の取組を総合的、計画的に進めるものである。その取組を視察。

・視察の内容 … 徳島市では、環境の保全に関する施策を総合的、計画的に推進するため、令和3年度から令和12年度を計画期間とする「第3次徳島市環境基本計画」を策定。五つの基本目標。

① 地球市民として、脱炭素社会をめざすまち 【地球環境】

② いつまでも健康で安心して暮らせるまち 【生活環境】

③ 快適で、安らぎのある自然と人が共生できるまち 【自然・快適環境】

④ 持続可能な資源循環システムが構築されているまち【循環型社会】

⑤ 次世代につなぐ、環境行動力の高いまち【環境学習・環境保全活動】

地球温暖化対策実行計画「事務事業変」として第5次徳島市エコオフィスプラン（令和3年度から令和12年度）を策定。温室効果ガス排出量を平成25年度と比較して40%削減することを目標とし、より一層の地球温暖化対策の推進に取り組む。対象範囲は、市のすべての事務、事業、市のすべての組織や施設（指定管理者制度を導入している施設を含む）

取組項目

① 電器使用料の削減 … 前年度比で毎年1%以上削減

② 公用車の燃料使用量の削減 … 令和元年度比で15%以上削減

③ グリーン購入の推進 … 文具類のグリーン購入率100%

④ 用紙類使用量の削減 … 令和元年度以下に削減

⑤ 廃棄物の削減 … リサイクル率70%

⑥ 廃プラスチック量の削減 … 令和元年度以下に削減

⑦ 環境に配慮した率先行動、環境に配慮した施設等整備、環境に配慮した設備管理、

・行政視察の結果を本市議会にどのように反映させるか

【地球環境】では、自然災害対策等の気候変動につよいまちづくり。

【生活環境】では、水環境のモニタリング等の水環境の保全。

【自然・快適環境】では、森林、農地の保全等の里地、里山の保全、創造。

【循環型社会】では、ごみを出さないライフスタイルの推進等のごみ減量、リサ

イクル。

【環境学習・環境保全活動】では、環境教育、環境学習の推進と充実。

・視察の目的 … ④について 神山町を通して考える「創造的過疎」人口 5000 人の小さな町で、なぜ新たな展開が次々と起きるのか。

【認定 NPO 法人グリーンバレー事務局：作田祥介氏】

・視察の内容 … まちの紹介：人口 4827 人、森林面積 86%、人口増加や若い世代が増えてオルタナティブスクールやオルタナティブ幼稚園が設立されている。

グリーンバレー理事、神山まるごと学園理事 大南信也氏 スタンフォード大学卒

グリーンバレーのミッション：日本の田舎を素敵に変える。

グリーンバレーの由来：シリコンバレーに因んでクリエイティブなまちにしたい。

グリーンバレーの事業内容

- ・移住交流支援事業
- ・神山アーティスト・イン・レジデンス
- ・アドプト・プログラム（道路清掃）
- ・大栗山の森づくり
- ・ほんのひろば（図書館のない町の私設図書室）
- ・農村環境改善センターの管理運営
- ・神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス
- ・モノストック

商工会青年部の仲間です。1991 年の「アリスの里帰り」という成功体験を受けてこの団体を設立。これまで社会情勢に合わせた事業ごとにテーマを変えて実施している。

## 1997年徳島県新長期計画（総合計画）

神山を中心とした「とくしま国際文化村」をつくることがターニングポイントとなった。

その後神山アーティストレジデンス事業の実施等を経てアーティストが毎年100名程度応募がある。野外作品をめぐるアートウォーク整備に繋がった。アーティストの移住も進み、その繋がりで歯医者や宿泊施設の誘致が実現した。

ビジネスの創出：自費滞在する芸術家に対する宿泊やアトリエなど有償滞在サービスに繋がる。

ワークインレジデンス：地域が移住者を逆指名する発想。

WEBサイト「イン神山」の制作：空き家情報、Iターン需要の顕在化。

神山町移住交流支援センターを受託。

カフェ オニヴァ、フレンチビストロから宿泊業や森のサウナを設立。

オフィスイン神山：クリエイターが滞在できる場所づくり（展開可能な職種を探す）

クリエイターレジデンス

サテライトオフィスの誕生：東京芸術大学建築学科の協力を得て立ち上げ、人の繋がりにより株式会社SANSANがサテライトオフィスを創設。その後プラットイーズのえんがわオフィスに続く。

職業訓練開始（厚生労働省所管）：起業家の創出に繋がる。

移住者、視察者のために滞在施設WEEK神山を設立。これまでの企業がこれまで挑戦していなかった職種への挑戦が始まる。

行政側も何かできることがあるのではないかという機運が高まり、2015年地方創生



戦略を策定。

必要な施策領域を設定し取組項目を決定

子育て世代向け集合住宅プロジェクト。2016年木質バイオマスを活用。県立高の学科

再編と県外生の受け入れ。食農教育：フードハブプロジェクト。

神山まるごと高専プロジェクト：学生数200名(5年制) テーマ：デザイン×デザイン

神山まるごと高専開校への歩み「目標は創業10年で株式上場。その後は教育プロジ

ェクトを！」企業版ふるさと納税を活用。

2016年1月 「神山に学校をつくれないうらうか？」

2016年10月 「高専はどううらうか？高専で行こう」

2018年8月 神山高専設立準備委員会（15名）

2019年6月 神山まるごと高専設置構想発表

奨学金給付型スキームを制作。100億円の運用益を学校運営につなぐ。様々なプロジェ

クトが連携をして相乗効果を出している。

結果、社会動態がプラスに転じる。30年間の様々な取組やもともとあったレジデンス

文化が交わり成功へと導いた。「わけのわからないものへの投資」

・行政視察の結果を本市議会にどのように反映させるか

「創造的過疎」

人口減少の現状を受け入れ、人口の中身を変える。若者や創造的な人材の誘致によっ

て人口構成の健全化を図るとともに多様な働き方が可能なビジネスの場として価値を

高めることにより持続可能な地域を目指す。

A large rectangular area with rounded corners, containing a grid of horizontal lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page, providing space for the main body of the report.